

服部次郎 教授 研究業績目録

Publication List of Professor Jiro HATTORI

著書

- 1) 保育者へのステージⅠ. 長柄孝彦・服部次郎ほか10名の共著, 担当部分: pp. 104-107. 愛智出版, 2006年.
- 2) 実践から学ぶ児童虐待. 谷口卓・服部次郎ほか76名の共著, 担当部分: 第8章「児童虐待から現代の子育てを見直す」(pp. 125-145). 学苑社, 2007年.
- 3) 実践事例に基づく障害児保育—ちょっと気になる子への関わり—. 七木田敦・服部次郎ほか7名の共著, 担当部分: 第4章9「友だちができにくく孤立しがちなこども」の対応には (pp. 100-102). 保育出版社, 2007年.
- 4) 現代児童福祉論 (第2版). 編著者: 加藤俊二, 執筆者: 服部次郎, 竹島郁子, 小林信次, 岩崎克司, 加藤三男, 富永忠雄, 後藤紀子, 喜多一憲, 担当部分: 第18章「在宅サービスの現状と課題」(pp. 213-224), 第22章「児童相談援助活動をすすめる上での留意点」(pp. 256-267), 23章「児童相談援助の具体的事例」(pp. 268-280). ミネルヴァ書房, 2009年.
- 5) 演習 児童の社会的養護内容. 神戸賢次・服部次郎ほか14名, 担当部分: 1部4章3節2「児童自立支援施設の現状と課題」(pp. 62-63), 2部8「児童自立支援施設の事例」(pp. 158-165). みらい, 2011.
- 6) 新選 児童の社会的養護原理. 神戸賢次・服部次郎ほか16名, 担当部分: 第12章「職員の専門性の課題」(pp. 160-190). みらい, 2011年.
- 7) 基礎から学ぶ社会的養護. 加藤孝正・服部次郎ほか8名, 担当部分: 第5章「施設職員の専門性と課題」(pp. 75-92). ミネルヴァ書房, 2012年.
- 8) 保育リーダー養成研修ガイドブック. 林陽子・服部次郎ほか30名, 担当: 第2章第2節2「障害児保育」(pp. 75-79). 一般社団法人愛知県現任保育士研修運営協議会発行, 2018年.
- 9) 現代児童家庭福祉論. 編著者: 服部次郎,

執筆: 服部次郎他12名, 担当部分: 序章「自立支援・多職種連携を重視した児童家庭福祉」(pp. 1-9), 第3章「児童家庭福祉の基盤となる理念・思想」(pp. 48-56), 第4章「児童家庭福祉の歴史の変遷」(pp. 57-65), 第10章3「施設職員の専門性と課題」(pp. 157-170), 第12章(共著)「在宅サービスの現状と課題」(pp. 180-199), 第13章(共著)「社会的養護を支える施設サービスの現状と課題」(pp. 200-212), 第14章「事例で見る児童家庭福祉サービス」(pp. 213-242), 終章「児童家庭福祉の現状・課題と今後の展望」(pp. 243-249). ミネルヴァ書房, 2018年.

学術論文

- 1) 服部次郎 (2005年) 高機能自閉症と思われる事例への援助. 岡崎女子短期大学研究紀要 第38号, pp. 1-14.
- 2) 服部次郎 (2007年) 高機能自閉症と思われる事例への援助(2). 岡崎女子短期大学研究紀要 第40号, pp. 19-26.
- 3) 服部次郎 (2009年) 障害児と健常児がともに育ちあう環境とは. 岡崎女子短期大学研究紀要 第42号, pp. 33-42.
- 4) 服部次郎・谷田貝雅典 (2010年) 保育実習(施設)の意義について—実習を終えた学生のアンケートから見えてくるもの—. 岡崎女子短期大学研究紀要 第43号, pp. 47-54.
- 5) 服部次郎・谷田貝雅典 (2011年) 保育実習(施設)の意義について(2)—実習を終えた学生のアンケートから見えてくるもの—. 岡崎女子短期大学研究紀要 第44号, pp. 1-6.
- 6) 服部次郎 (2012年) 保育者・教師養成課程における初年次教育としての施設(学校)見学を充実させる事前学習の実践—学生が主体的に学ぶことを目指した「施設調べ」の試み—. 椋山女学園大学教育学部紀要 Vol. 5, pp. 147-164.
- 7) 服部次郎・谷田貝雅典・山田光治 (2012

- 年) 保育実習 (施設) の意義について(3)―実習を終えた学生のアンケートから見えてくるもの―。共著、岡崎女子短期大学研究紀要 第45号, pp. 63-72.
- 8) 服部次郎 (2013年) 保育者・教師養成課程における初年次教育としての施設 (学校) 見学を充実させる事前学習の実践(2)―学生が主体的に学ぶことを目指した改訂版「施設調べ」の試み―。椋山女学園大学教育学部紀要 Vol. 6, pp. 283-307.
- 9) 服部次郎・谷田貝雅典・山田光治 (2013年) 4年制大学と短期大学における保育実習 (施設) の意義について(4)―実習を終えた2年生の学生のアンケートから見えてくるもの―。岡崎女子短期大学研究紀要 第46号, pp. 15-23.
- 10) 服部次郎 (2014年) 保育者・教師養成課程における初年次教育としての施設 (学校) 見学を充実させる事前学習の実践(3)―学生が主体的に学ぶことを目指した改訂版「施設調べ」の試み―。椋山女学園大学教育学部紀要 Vol. 7, pp. 187-208.
- 11) 服部次郎・谷田貝雅典・山田光治 (2014年) 4年制大学と短期大学における保育実習 (施設) の意義について(5)―実習を終えた1・2年生の学生のアンケートから見えてくるもの―。岡崎女子短期大学・大学学術教育総合研究所所報 第7号, pp. 35-44.
- 12) 服部次郎 (2015年) 保育者・教師養成課程における初年次教育としての施設 (学校) 見学を充実させる事前学習の実践のその後の専門教科への影響について―学生の主体的学びの促進を目指した授業での試み―。椋山女学園大学教育学部紀要 Vol. 8, pp. 179-192.
- 13) 服部次郎 (2016年) 保育者・教師養成課程で学ぶ学生の主体的学び (学びの主体性) の促進を目指した授業での試みについて―「手書き A3課題」を授業に活用することの意義とその効果―。椋山女学園大学教育学部紀要 Vol. 9, pp. 191-203.
- 14) 服部次郎 (2017年) 保育者・教師養成課程で学ぶ学生の主体的学び (学びの主体性) の促進を目指した授業での試みについて(2)―「手書き A3課題」を授業に継続して活用することの意義とその効果―。椋山女学園大学教育学部紀要 Vol. 10, pp. 337-351.
- 15) 服部次郎 (2018年) 保育者・教師養成課程で学ぶ学生の主体的学び (学びの主体性) の促進を目指した授業での試みについて(3)―「手書き A3課題」を授業に3年継続して活用することの意義とその限界―。椋山女学園大学教育学部紀要 Vol. 11, pp. 147-159.
- 16) 服部次郎 (2019年) 保育者・教師養成課程で学ぶ学生の「将来に役立つ学びの促進」を目指した授業の試みについて(1)―「手書き A3課題」を授業に活用することの意義―。椋山女学園大学教育学部紀要 Vol. 12, pp. 299-310.

研究レポート

- 1) 服部次郎 (1984年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ―子供の心に残る大人の手本―。(障害児と健全児の相互理解と相互扶助を目指して、長年にわたり学生ボランティアを中心に企画運営されてきた3泊4日の合同 (統合) キャンプに助言者として参加するなかで毎年作成することとした研究レポートの第1作である。障害のある児童と障害のない児童が3泊4日というある意味で限られた日程でキャンプ生活を共にする意義は大きい。その中で育っていくものを、障害の種類や程度に焦点を当てつつ様々な観点から分析したものである。同時に児童の成長を支援する学生たちの成長にも注目し、その変化の要因等についても分析している) 朝日新聞厚生文化事業団研究レポート, pp. 58-61.
- 2) 服部次郎 (1985年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ―キャンプにおける人と自然―。朝日新聞厚生文化事業団研究レポート, pp. 12-14. (注) この年度以降のレポートは平成13年度まで手元には保存されていないため、概要は省略する。
- 3) 服部次郎 (1986年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ―自己洞察の手がかり―。朝日新聞厚生文化事業団研究レポート, pp. 16-21.
- 4) 服部次郎 (1987年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ―気にかかる子―。朝日新聞厚生文化事業団研究レポート, pp. 30-34.

- 5) 服部次郎 (1988年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ—カウンセラーに求められるもの—, 朝日新聞厚生文化事業団研究レポート, pp. 56-60.
- 6) 服部次郎 (1989年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ—こころの余裕—, 朝日新聞厚生文化事業団研究レポート, pp. 30-38.
- 7) 服部次郎 (1990年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ—三匹の子豚とカウンセラー—, 朝日新聞厚生文化事業団研究レポート, pp. 27-33.
- 8) 服部次郎 (1990年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ—キャンプでのささやかな挑戦—, 朝日新聞厚生文化事業団研究レポート, pp. 1-5.
- 9) 服部次郎 (1994年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ—合同キャンプとアドバイザー—, 朝日新聞厚生文化事業団研究レポート, pp. 1-6.
- 10) 服部次郎 (1995年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ—ソファの下には何がある—, 朝日新聞厚生文化事業団研究レポート, pp. 1-5.
- 11) 服部次郎 (1996年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ—心のエネルギー補給のための行動—, 朝日新聞厚生文化事業団研究レポート, pp. 1-4.
- 12) 服部次郎 (1997年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ—キャンプにおける厳しさと楽しさ—, 朝日新聞厚生文化事業団研究レポート, pp. 1-4.
- 13) 服部次郎 (1998年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ—「動かない」ことの意味するもの—, 朝日新聞厚生文化事業団研究レポート, pp. 1-5.
- 14) 服部次郎 (2000年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ—グループワークを進める際に重要と考えられる要因 (臨床的試案)—, 朝日新聞厚生文化事業団研究レポート, pp. 1-4.
- 15) 服部次郎 (2001年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ—構造化と視覚化—, 朝日新聞厚生文化事業団研究レポート, pp. 1-5.
- 16) 服部次郎 (2002年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ—分かりやすい環境作り—, 朝日新聞厚生文化事業団研究レポート, キャンプの特徴について「分かりやすい環境」と「こころを育む合同キャンプ」という観点で検討したもの, pp. 1-5.
- 17) 服部次郎 (2003年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ—適切な環境とは—, 朝日新聞厚生文化事業団研究レポート, 合同キャンプに参加している子どもの成長にとって適切な環境とは何かを分析したもの, pp. 1-8.
- 18) 服部次郎 (2004年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ—人格と環境との相互作用による児童の成—, 朝日新聞厚生文化事業団研究レポート, 合同キャンプ参加メンバーの気になる言動について考える時に, 人格的要因と環境的要因に注目した上で, 具体的に何が大切であるかを分析したもの, pp. 1-5.
- 19) 服部次郎 (2005年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ—グループの発達段階について—, 朝日新聞厚生文化事業団研究レポート, 合同キャンプ4日間のグループ活動を追跡し, グループの発達段階について「四段階説」を試案として提案した。十分とはいえないがある程度の妥当性があることが確認された, pp. 1-8.
- 20) 服部次郎 (2006年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ—グループの発達段階について(2)—, NPO 法人朝日キャンプ研究レポート, 前年度の試案を追跡調査したところ, 合同キャンプにおけるグループの発達段階には一定の妥当性があるが, グループの状況により, 段階のあらわれる順序が変動することが明らかにされた, pp. 1-6.
- 21) 服部次郎 (2007年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ—グループの発達段階について(3)—, NPO 法人朝日キャンプ研究レポート, 合同キャンプにおけるキャンパーの主体的変容とそれを支える環境的要因を分析したもの, pp. 1-7.
- 22) 服部次郎 (2008年) アサヒ障害児・健全児合同キャンプ—朝日障害児・健全児合同キャンプにおけるグループの発達段階に焦点を当てて—, NPO 法人朝日キャンプ研究レポート, 前回の分析をさらに発展させるために保護者の思いを通じて, グループの発達段階の妥当性を検討したもの, pp.

1-10.

- 23) 服部次郎 (2009年) アサヒ 障害児・健常児合同キャンプ—障害児と健常児がともに育ちあう環境とは—, NPO 法人朝日キャンプ研究レポート, 二十数年に渡り筆者が関わりをもってきたこの事業の総まとめとして書き上げ, 紀要にのせたものである. pp. 33-42.

その他〈学会発表〉

- 1) 高機能自閉症と思われる事例への援助—保育園における TEACCH の活用—. 単著, 平成16年10月22日2004年, 全国保育士養成協議会 第43回研究大会, 上述学術論文

に同じ. pp. 72-73.

- 2) 保育実習における様式の変更について, 共著, 平成17年5月21日2005年, 日本保育学会 第58回大会, pp. 164-165.
- 3) 高機能自閉症と思われる事例への援助(2), 単著, 平成18年9月10日2006年, 全国保育士養成協議会 第45回研究大会, 上述学術論文に同じ. pp. 74-75.
- 4) (ポスター研究発表) 保育実習(施設)の意義について—実習を終えた学生のアンケートから見えてくるもの—. 共著, 平成23年9月2011年, 全国保育士養成協議会 第50回大会, 共著者: 谷田貝雅典. pp. 92-93.